

結婚・出産プレミアムの再検証と考察

一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程 孫亜文¹

結婚や出産が所得に与える影響は、経済学では結婚・出産プレミアム／ペナルティと呼ばれている。結婚・出産プレミアムについては、アメリカ・イギリスで多くの研究が蓄積されており、男女では異なる結果が報告されている。先行研究によると、男性では、結婚が賃金に正の影響を与えることが多く、女性ではほとんど影響が観測されない。また出産は男性の賃金に正の影響を与えるが、女性では負の効果があることが多い。

日本のデータを用いた研究（川口（2005））では、男性について結婚・出産プレミアムが観測されたが、女性では対照的に結婚・出産ペナルティが観測された。しかし、データの制約上、有配偶男性と無配偶男性の比較分析が行われなかったため、本稿では、2004年から2012年までの『慶應義塾家計パネル調査』の個票データを用いて、結婚・出産プレミアムの再検討を行う。

その結果、OLS 推定では男性の結婚・出産プレミアムが観測されたが、女性では結婚ペナルティのみが観測された。観測されない個人間の異質性をコントロールした固定効果推定では、統計的な有意性は得られなかったが、男性の結婚・出産ペナルティが観測された。また、女性では出産プレミアムが観測され、先行研究とは異なる結果となった。これらの結果より、観測されない個人間の異質性が、男性では上方向の、女性では下方向のバイアスを与えていると考えられる。

推定結果	男性				女性			
	OLS	OLS	FE	FE	OLS	OLS	FE	FE
被説明変数	log 賃金	log 賃金	log 賃金	log 賃金	log 賃金	log 賃金	log 賃金	log 賃金
結婚ダミー	0.148 (0.036)***	0.150 (0.037)***	-0.038 (0.045)	-0.037 (0.045)	-0.078 (0.040)*	-0.073 (0.040)*	-0.067 (0.044)	-0.068 (0.044)
子供の有無	0.121 (0.030)***	—	-0.009 (0.029)	—	-0.022 (0.036)	—	0.072 (0.029)**	—
子供が1人	—	0.079 (0.033)**	—	-0.012 (0.031)	—	0.007 (0.039)	—	0.071 (0.032)**
子供が2人	—	0.125 (0.032)***	—	-0.002 (0.032)	—	-0.042 (0.039)	—	0.068 (0.033)**
子供が3人以上	—	0.178 (0.041)***	—	-0.011 (0.042)	—	-0.032 (0.047)	—	0.086 (0.045)*

* $p < 0.1$; ** $p < 0.05$; *** $p < 0.01$. 括弧内は標準誤差を表す。FEは固定効果推定である。

¹ Email: ed122005@g.hit-u.ac.jp